

平成 22 年 5 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2009
課題番号：19320041
研究課題名（和文） 戦時上海の文芸文化と邦字新聞「大陸新報」に関する多角的研究
研究課題名（英文） A multifaceted study of literary culture in wartime Shanghai and a Japanese newspaper, “Tairiku Shinpo”
研究代表者
大橋 毅彦（OHASHI TAKEHIKO）
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：60223921

研究成果の概要（和文）：日中戦争下の上海で刊行された邦字新聞「大陸新報」に掲載された文芸とそれに隣接する文化関係の記事に関する網羅的調査と、それをもとにした研究会活動を実施した。その結果、政治史や軍事史といった側面からは見逃されていた記事を数多く拾うことができ、昭和文学や中国現代文学の空白部を埋めることができた。さらに、日本占領下において上海の文化界が複雑な軌跡を描いていく位相も具体的に捉えることができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, we have exhaustively explored articles about literature and culture published in “Tairiku Shinpo”, a Japanese newspaper during the Sino-Japanese War (1937-1945), and held research meetings to analyze the exploration. The result enabled us to collect those numerous articles which have been ignored in political history or military history, and to fill a vacuum of the studies of Japanese literature in the Showa Era or modern Chinese literature. And we observed that cultural activities in Shanghai had been drawing a complex trajectory under the Japanese occupation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2008年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
年度			
年度			
総計	11,300,000	3,390,000	14,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本近代文学・中国現代文学・上海史・メディア史・日中文化交流史

1. 研究開始当初の背景

日中戦争期の上海文化界の動向を考察す

るにあたって、現地の邦字新聞紙「大陸新報」は、それに関連した数多くの記事を登載した貴重な新聞資料である。この新聞は、これま

で日中近代史やメディア史研究の側で、汪兆銘政権の動向を探ったり、国策新聞としての性格を明らかにするために取り上げられてきたが、戦時下上海における日中両国の文学及び文化の実態を捕捉するための媒体として注目されることはなかった。「大陸新報」の文化面の記事を丹念に追いながら、政治史といった側面からだけでは見えてこない戦時下上海の位相を掘り起こす必要がある。

2. 研究の目的

本研究は「大陸新報」掲載の文芸・文化関連記事の網羅的調査とそれらの分析・検討を通じて、次の諸点を達成することを目的とする。

(1) 昭和文学の主要な担い手である文学者が「大陸新報」に寄せた作品を掘り起こすことによって、個別の作家研究や書誌的研究に対して新たな資料を提供する。

(2) 上海に活動の基盤を置く日本文学者が多数登場する点に注目して、現地文学の実態に迫る。

(3) 「大陸新報」に掲載された中国文学者の作品の検討を通じて、日本占領下の上海において彼らが選択した活動形態の多様性を解明する。

(4) 調査の対象範囲を文学に隣接する他の芸術諸ジャンル、教育や新聞出版界等にも広げることによって、戦時下上海の文化界全体の動向を鳥瞰し得る態勢を整える。

(5) 同紙に掲載された大陸新報社主催の座談会や文化的イベントに関する記事、あるいは「大陸新報」と他紙(誌)の間に見られる記事の転載といった出来事に注目して、大陸新報社がとった出版戦略の特徴を捉える。

3. 研究の方法

(1) 国立国会図書館所蔵のマイクロフィルム版を利用して、1939年1月から1945年9月まで発行された「大陸新報」掲載の文芸文化関連記事(夕刊も含む)を以下の分担で精査し、細目作成に取り組む。採録範囲やコメントの付け方については、予め基本方針を立てておくが、調査の実情に応じて適宜修整や変更を加えていく。

1939年1月～6月	(竹松良明)
1939年7月～12月	(松本陽子)
1940年1月～6月	(大橋毅彦)
1940年7月～12月	(趙夢雲)
1941年1月～6月	(山崎真紀子)
1941年7月～12月	(鈴木将久)
1942年1月～6月	(木田隆文)
1942年7月～12月	(関根真保)

1943年1月～4月	(木田隆文)
1943年5月～8月	(関根真保)
1943年9月～12月	(松本陽子)
1944年1月～4月	(大橋毅彦)
1944年5月～8月	(山崎真紀子)
1944年9月～12月	(竹松良明)
1945年1月～9月	(鈴木将久)

(2) 「大陸新報」掲載記事および大陸新報社の活動とも関わりを持つ他の新聞や雑誌の調査を現地発行のものも含めて開始し、それらが戦時下上海の文化構造の中で示す位相についての共同研究も推進する。

(3) 上記二点の課題を達成するために、年数回の研究会と、上海を中心とする現地踏査(資料収集)を実施する。研究会では「大陸新報」掲載文芸文化関連記事細目作成に向けての情報の蓄積を図るとともに、この作業を通して関心を深めつつある具体的なテーマを各自が用意して、それについての研究発表も行う。さらに、外部からのゲストスピーカーの参加も企画し、本研究プロジェクトと隣接する領域で活動している研究者や研究グループとの間での知的交流を盛んにする。

4. 研究成果

「大陸新報」に掲載された文芸文化関連記事細目作成に関しては、「文学」「映画」「美術」「音楽」「演劇舞踊」「教育」「宗教」「新聞出版」「放送」といった多岐のジャンルと、「上海東亜同文書院」「上海中日文化協会」「上海自然科学研究所」「大陸新報社」などの動向とにわたって16の項目を設けて、それぞれに該当する記事の収集にあたったが、3年間の調査期間を通じて集まったデータの件数は約2万件に上るものとなった。

この作業と並行して2008年度から2009年度にかけて、「大陸新報社時代の可東みの助」、「詩画集『黄包車』研究から見えてくる文化統治ネットワークの錯綜性について」、「『河向ふ』の「敵国人」と「優良」虹口サイドのユダヤ人」、「上海における内地文学の受容と現地文学活動」、「淪陷期上海の都市イメージの変容」、「日中戦争中、路易士の詩と詩論」などのタイトルを掲げて、メンバーの研究報告も定期的実施したが、そこでは共同作業によって集積されてくる詳細にして豊富なデータの活用および「大陸新報」周辺の新聞・雑誌に関する調査を通じて、主に次のような成果があがった。

(1) 「文学」に関連する記事の中から多くの作家の評伝的側面に新たな要素を付加する新資料が発見された。(たとえば、阿部知二と上海中日文化協会との関わり、南京および上海の中国文学者を第三回大東亜文学

者大会に向けて糾合していく草野心平の動き、武田泰淳の戦後における作家的出発を予言する作品の発見などがそれにあたる。）

(2) 上記のいわゆる文学史上において著名な作家とは異なって、これまでほとんどその存在や活動内容が知られてこなかった現地文学者や文化人の動向が徐々に分かってくるとともに、日本占領下の上海であっても、それがけっして一枚岩的なものではなく、さまざまな葛藤や軋轢を孕んでいることも見えてきた。(「大陸新報」の「土曜文芸」欄に依拠して活動した長江文学会や、最終的には大陸新報社を発行所として機関誌「上海文学」を刊行していく上海文学研究会の動き。話劇「文天祥」や現地中国語雑誌に掲載される文学作品をめぐる評価の分裂。)

(3) 「上海東亜同文書院」「上海中日文化協会」のように採録基準の大項目としては挙がってこずとも、戦時下の上海文化界の実相を考察する上で新たな視座を提示してくる文化機関や団体の活動の諸相に触れることができた。(上海画廊の「建設美術館」的性格や、上海自然科学図書館の租界進出の様態など。)

(4) 従来のメディア研究では、「大陸新報」は朝日新聞と密接なつながりをもつ国策新聞として捉えられていたが、今回の研究では同紙掲載の重慶や毛沢東の動向を伝える記事が、改造社の「改造」ならびに「大陸」といった雑誌に転載されている事実も発見され、そのことから大陸新報社の出版戦略や同社を基点として中国と日本との間に形成される言説ネットワークが、これまで以上に多層性を帯びるものとして映じてきた。

これらの成果を外部に向けて発信し、隣接領域の研究者との学術的交流を活発にするために、研究会メンバーの趙と大橋はそれぞれ植民地文化学会、横光利一文学会、慶応大学松村友視教授を代表とする科研プロジェクト(研究課題名「改造社を中心とする20世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究」)の研究集会で報告を行うとともに、2008年度以降は『堀田善衛上海日記 滬上天下一九四五』(集英社、2008)の編者である日本大学の紅野謙介教授、『上海多国籍都市の百年』(中公新書、2009)の著者である中央大学の榎本泰子教授との意見交換会も開催した。

また、今回の研究で得た知見は、本研究プロジェクトの構成員中6名の者が同プロジェクトの開始に先立って取り組んでいた武田泰淳の小説「上海の螢」の注釈的研究にも活かされ、『上海1944-1945 武田泰淳

『上海の螢』注釈』(双文社出版、2008)と なって結実した。注釈的方法をとって戦時上海の文化的混沌とその背後に広がる無数の歴史的力線を照射した同書は、「週刊読書人」「国文学研究」「昭和文学研究」「みすず」「東方」などに載った書評、新刊紹介、読書アンケートの中で注目、紹介された。

さらに、この欄の最初に記した3年間に及ぶ調査によって蓄積された「大陸新報」掲載記事のデータは、2009年11月に立命館大学金丸裕一教授監修のもとにマイクロフィルム版で同新聞を復刻したゆまに書房との打ち合わせを経て、『「大陸新報」掲載文芸文化関連記事目次』(仮題)として刊行される運びとなり、現在2010年12月の刊行を目指してデータの最終点検と、巻末に載せる人名索引の採録基準の検討と抽出に入ったところである。同社は、「大陸新報」の資料的価値を前面に押し出すために、マイクロ版とともに別巻1として『大陸新報主要記事目次 昭和14・15年』も同時刊行したが、そこに採録されたものは政治・軍事・経済に関わるものだった。昭和16年以降についても続刊は予定されているが、採録基準と編集方針に変更はないとのこと。本研究プロジェクトの成果として刊行されるものは、いわばそうした「大きな物語」では掬い取れない歴史や社会の襞の細部に分け入ることによって、戦時下の上海において生起する文化的諸問題を考察するための視野を格段に広げていくための好個の資料となるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① 鈴木将久、日中戦争下の「純粹詩」—路易士の詩と詩論、明治大学教養論集、査読有、450号、2010、pp. 39-67
- ② 趙夢雲、日本近代文学における上海研究文献目録 1940年代・前編、東大阪大学「教育研究紀要」、査読有、第7号、2010、pp. 77-94
- ③ 趙夢雲、「大陸新報」に掲載された可東みの助作品一覧、天理大学中国文化研究会「中国文化研究」、査読有、第26号、2010、pp. 47-78
- ④ 竹松良明、知二の〈上海もの〉の色調—戦時下上海の都市イメージの変容、阿部知二研究、査読無、第16号、2009、pp. 14-22
- ⑤ 大橋毅彦、鄔其山・Lyceum・上海ゲットー、横光利一研究、査読有、第7号、2009、pp. 52-68

- ⑥ 趙夢雲、可東みの助と戦時上海—「大陸新報」時代の漫画・漫文を中心に、天理大学中国文化研究会「中国文化研究」、査読有、第 25 号、2009、pp.21-46
- ⑦ 竹松良明、『夜の人』『うつせみ』の実質—傷痕のモチーフに即して—、阿部知二研究、査読無、第 15 号、2008、pp.16-24
- ⑧ 大橋毅彦、彷徨える木版画集『黄包車』—上海亡命ユダヤ人の芸術活動再検討のために—、港（ナマール）、査読有、第 13 号、2008、pp.2-19

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① 趙夢雲、大陸新報時代の可東みの助、植民地文化学会、2008 年 7 月 13 日、江東区東大島文化センター
- ② 大橋毅彦、戦時上海における日本の文化統治と帝国主義的言説構築の中を走る無数の力線、「改造社を中心とする 20 世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究」第 9 回研究会、2008 年 7 月 12 日、慶応大学

〔図書〕（計 1 件）

- ① 大橋毅彦・趙夢雲・竹松良明・山崎眞紀子・松本陽子・木田隆文、双文社出版、上海 1944-1945 武田泰淳『上海の螢』注釈、2008、260 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大橋 毅彦 (OHASHI TAKEHIKO)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：60223921

(2) 研究分担者

竹松 良明 (TAKEMATU YOSHIAKI)
大阪学院短期大学・経営実務科・教授
研究者番号：30249396
趙 夢雲 (TYOU MUUN)
東大阪大学・こども学部・教授
研究者番号：80390152
鈴木 将久 (SUZUKI MASAHISA)
明治大学・政治経済学部・准教授
研究者番号：00298043
木田 隆文 (KIDA TAKAFUMI)
奈良大学・文学部・講師
研究者番号：80440882
山崎 眞紀子 (YAMASAKI MAKIKO)
札幌大学・法学部・教授
研究者番号：00364208
(H20→H21：研究協力者)

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4) 研究協力者

関根 真保 (SEKINE MAHO)
京都大学高等教育研究開発推進機構・
非常勤講師
松本 陽子 (MATSUMOTO YOKO)
和泉書院